

タマネギの小菌核病に対する効率的防除対策

北海道立総合研究機構 北見農業試験場 ^い池 ^た谷 ^み美 ^な奈 ^こ子
北海道立総合研究機構 中央農業試験場 ^や山 ^な名 ^と利 ^かかず ^ず一

はじめに

タマネギ小菌核病は *Ciborinia allii* によって起こる病害で、我が国では兵庫県で初めて発生が確認された（松尾，1974）。北海道では1996年に初めて発生が確認され（田村ら，1996），その後北海道各地のタマネギ産地に発生が拡大している。しかし，本病の防除に関する研究は少なく，道外では同一病原菌によるネギ小菌核病に対する報告（阿部ら，2009；齋藤ら，2009）があるものの，タマネギ小菌核病では見当たらない。北海道でも，少発生条件下の1例（上川農業改良普及センター タマネギ小菌核病対策プロジェクトチーム，2009）のみである。さらに，小菌核病の初期病斑はタマネギで最も重要な病害である白斑葉枯病（灰色かび病）との判別がむずかしく，小菌核病に登録のない白斑葉枯病の防除薬剤を選択した結果，被害が拡大した事例もあり，大きな問題となっていた。

そこで，タマネギ小菌核病に対する効率的な防除対策を確立する目的で試験を行い，本病原菌の発生生態に基づいた防除対策をまとめたので紹介する。

本文に先立ち，道総研花・野菜技術センター生産環境グループ主査佐々木純氏には，滝川市におけるタマネギ小菌核病菌の菌核からの子とう盤形成時期，小菌核病および白斑葉枯病の初発期の調査にご協力いただいた。ここに記して感謝申し上げる。

I タマネギ小菌核病の生活環

本病のタマネギへの感染は主に子とう盤（いわゆるキノコ）に形成される子とう胞子によるとされている。子とう盤は，タマネギ圃場やその周辺で冬を越した小菌核病菌の菌核上に形成される（図-1）。子とう胞子の感染

後，まず葉に小さな斑点病斑（図-2左）が現れ，拡大して小豆形病斑（図-2右）となり，さらに拡大すると病斑部から折れて葉先が枯れ，早期に葉全体が枯れあが



図-1 菌核に形成された子とう盤



図-2 発生初期の斑点病斑（左）と拡大した病斑（右）

Efficient Control measures against Onion Leaf Blight caused by *Ciborinia allii* in Hokkaido. By Minako IKETANI-SAITO and Toshikazu YAMANA

（キーワード：タマネギ小菌核病，感染ピーク時期，薬剤散布適期，防除対策）